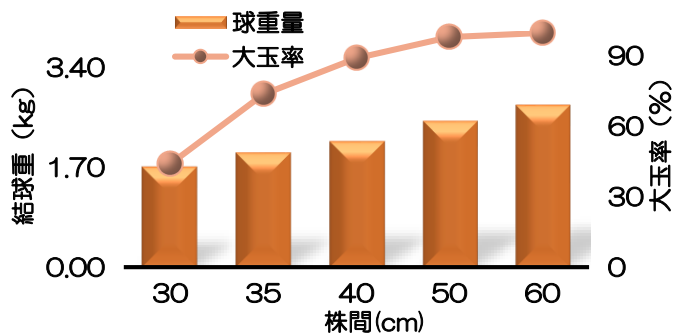


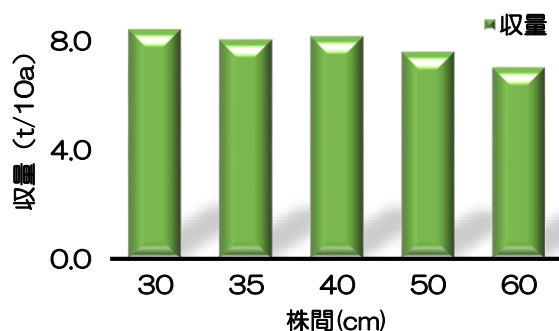
加工・業務用のキャベツは 40cm間隔で植えましょう



株間と球重量・大玉率



株間と収量



開発のねらい

現在、需要が伸びているコンビニや外食用途等で用いる加工・業務用キャベツは、一般家庭向けよりも大玉で揃いが良いことが求められます。そこで、大玉で揃いの良いキャベツをより多く作る条件のうち、ここでは間隔（株間）を明らかにしました。

新技術の概要

- 苗を植える株間が広いほど大玉になり（左グラフ）、玉の揃いがよくなりますが、広いほど収穫量は少なくなります（右グラフ）。
- 加工業者が求める1.7kg以上の大玉率は、株間40cm以上でほぼ90%以上となります（左グラフ）。
- 以上の結果から、株間40cmで十分な大きさのキャベツが10a当たり8 t 程度収穫できます。

活用場面

本技術は、真庭市蒜山地域を中心とした準高冷地に活用できます。単価の高い夏期の生産が安定するため、農家所得の向上が期待できます。